

☆年間第17主日(7月26日)の聖書朗読☆※主任司祭からの解説があります。

**第一朗読 (列王記上 3章5、7～12節)**

その夜、主はギブオンでソロモンの夢枕に立ち、「何事でも願うがよい。あなたに与えよう」と言われた。わが神、主よ、あなたは父ダビデに代わる王として、この僕をお立てになりました。しかし、わたしは取るに足りない若者で、どのようにふるまうべきかを知りません。僕はあなたのお選びになった民の中にいますが、その民は多く、数えることも調べることもできないほどです。どうか、あなたの民を正しく裁き、善と悪を判断することができるように、この僕に聞き分ける心をお与えください。そうでなければ、この数多いあなたの民を裁くことが、誰にできましょう。」

主はソロモンのこの願いをお喜びになった。神はこう言われた。「あなたは自分のために長寿を求めず、富を求めず、また敵の命も求めることなく、訴えを正しく聞き分ける知恵を求めた。見よ、わたしはあなたの言葉に従って、今あなたに知恵に満ちた賢明な心を与える。あなたの先にも後にもあなたに並ぶ者はいない。」

**第二朗読 (使徒パウロのローマの教会への手紙 8章28～30節)**

皆さん、神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働くということを、わたしたちは知っています。神は前もって知っておられた者たちを、御子の姿に似たものにしようとあらかじめ定められました。それは、御子が多くの兄弟の中で長子となられるためです。神はあらかじめ定められた者たちを召し出し、召し出した者たちを義とし、義とされた者たちに栄光をお与えになったのです。

## 福音朗読 (マタイによる福音書 13章 42～52節)

そのとき、イエスは人々に言われた。「天の国は次のようにたとえられる。畑に宝が隠されている。見つけた人は、そのまま隠しておき、喜びながら帰り、持ち物をすっかり売り払って、その畑を買う。

また、天の国は次のようにたとえられる。商人が良い真珠を探している。高価な真珠を一つ見つけると、出かけて行って持ち物をすっかり売り払い、それを買う。

また、天の国は次のようにたとえられる。網が湖に投げ降ろされ、いろいろな魚を集める。網がいっぱいになると、人々は岸に引き上げ、座って、良いものは器に入れ、悪いものは投げ捨てる。世の終わりにもそうなる。天使たちが来て、正しい人々の中にいる悪い者どもをより分け、燃え盛る炉の中に投げ込むのである。悪い者どもは、そこで泣きわめいて歯ぎしりするだろう。」「あなたがたは、これらのことがみな分かったか。」弟子たちは、「分かりました」と言った。そこで、イエスは言われた。「だから、天の国のことを学んだ学者は皆、自分の倉から新しいものと古いものを取り出す一家の主人に似ている。」

## 朗読解説 一主任司祭より皆様へ一

太陽の晴れ間が恋しいですね。皆様お元気ですか。昨日は「使徒聖ヤコブ」の祝日でした。使徒たちの中で最初に殉教した人です。使徒聖ヤコブを記念する大聖堂がスペインの街にあり有名な巡礼地になっています。フランスからそのサンチャゴ大聖堂までの巡礼路がなんと 1500 キロに及び、年間 35 万人の人たちが老いも若きもチャレンジしているそうです。私もいつか行きたいなと思っているのですが、思っているだけになりそうです。

さて今日は先週に引き続き福音ではマタイ13章が読まれます。13章でイエスは7つのたとえを話されていますが、これはのちにイエスの話をまとめて信者の皆さんに紹介したことが福音として書かれたといわれています。ですから、連続して話されたわけではないようです。きっと訪れた地方、

町々村々の人たちに合わせて話されていたのでしょう。今日はその中でも「宝を見つけた人」のことが描かれています。

**第一朗読 (列王記上 3章5、7～12節)**

夢枕に立たれた主がソロモン王に「何事でも願うがよい」と話しかけられ、ソロモン王は「あなたの民を正しく裁き、善と悪を判断することができるように、聞き分ける心をお与えください」と答え、「ソロモン王の知恵」と称えられる「知恵に満ちた賢明な心」与えられます。これが後世に伝えられる、シバの女王との知恵比べであり、乳飲み子の取り合いとなった二人の女性を見事に裁いた逸話の原点です。主はソロモンが自分の長寿や富や敵の命を求めず、「民を正しく裁き、善と悪を判断する知恵」を、すなわち奉仕し、主に使えることを求めたことを大変喜ばれます。私たちはいったい何を求めるでしょうか。今でいえば、コロナ感染症の鎮静化でしょうか。それとも…。

**第二朗読 (使徒パウロのローマの教会への手紙 8章28～30節)**

ここでは、「神は前もって知っておられた者たち」のことについてパウロは述べています。「知っておられた」という表現は、「愛された」とも言えるでしょう。「誰を愛されたのか」は私たち人間にはわかりません。神はえこひいきなさる方ではありませんから、私たち一人ひとりがみな神から愛されていると考えるのが当たり前でしょう。父である神がイエスを最大の愛をもって受け止められ、愛されたように、そのイエスに倣う私たちをも同じ愛に引き入れてくださるのです。イエスは私たち人類の長子であるからです。

**福音朗読 (マタイによる福音書 13章 42～52節)**

今日の福音は13章で語られる7つのたとえ話の内、後半の3つが語られています。一つ目は畑に隠されている宝を探し当てた人の話で、二つ目は高価な真珠を見つけた商人の話で、最後は魚を捕るために湖に投げ込まれた網の話です。イエスの時代にもトレジャーハンターがいたのですね。宝を一人占めしたいのはいつの時代でも同じようですね。宝を見つけた人はこっそりとその隠された宝がある畑を買い占めます。全財産をはたいてです。それほど「神の国」は価値があるものなのだとイエスは言われるのです。私たちに全財産をはたいてまでイエスを信じ切る覚悟があるかと問われているようです。「高価な真珠」は今以上に貴重だったようです。今では真珠の養殖技術が確立されて、女性ならば誰でも持っているものになったようですが、昔は「高価な真珠」を持つことが、何よりも価値のあることだったのでしょうか。ここで問われているのは、私たちの信仰生活は全財産を売り払ってまでも求めるものになっているか、でしょうか。私たちの重大な選択、決定はその時にできるものではなく、毎日の小さな選び、選択、判断がそうさせるのです。ですから、毎日選びなおしましょう。昨日はだめだったけれど、今日こそは…。

カトリック足立教会  
主任司祭 野口重光

**追記**

7月26日は典礼歴によると「マリアの両親聖ヨアキムと聖アンナ」の記念日にあたっています。神の母になられたマリアを生き育てられたこの両親に幼い子供たちを育てている方々の苦労を委ねましょう。

新型コロナウイルスの感染拡大が続いています。小さなお子様からお年寄りの方まで、「感染」にはくれぐれもお気をつけください。神様へのお祈りはご自宅でも十分にできますので、今はミサへの参加を無理せずお過ごしください。